

## 天津地区まちづくり懇話会会議録（要約）

と き：平成29年9月25日（月）午後7時～午後8時30分

ところ：天津小学校 体育館

出席：

（市 側） 市長、総務部長、市民生活部長、福祉保健部長、経済部長、建設水道部長、  
教育次長、消防長

（事務局） 秘書広報課長、企画財政課長

（天津地区） 81名

進 行（秘書広報課長）

1. 市長あいさつ
2. 出席者自己紹介
3. 前回（平成27年度）出された質問等に対するその後の対応状況報告（総務部長）
4. 市政報告（総務部長、教育次長、消防長）  
総合計画など主要施策の進捗状況について「まちづくりレポート」に基づき説明を行う
5. 意見交換会

### 意見①

先日の台風が来た時、国東町は有線放送があり、避難してくださいと放送がありました。宇佐市では、防災無線で放送しても、戸が閉まっているので意味がない。緊急時のスピーカーは全く機能していない。天気の良い時は良く聞こえる。

### 回 答

防災無線は、旧宇佐は屋外に設置しており、安心院は全戸個別設置、院内は一部個別に設置していますが、多くのみなさんから災害時に聞き取れないのではないかとこれまでも意見をいただいています。防災無線を設置してからすでに20年以上が経過しており、今はアナログ方式ですが、平成34年11月までにデジタル方式に改修することとしています。今年度から防災無線システムの基本構想に取り組んでおり、あらゆるシステムの検討や、テレビ、携帯などをうまく活用しながら情報伝達することを含めて方策を考えています。なるべく早いうちに基本構想を作りあげ実施にむけて進めていきたいと思っています。

### 意見②

海岸の堤防の一部が劣化しており、半分くらいになっている。県と一緒に対応してほしいと思います。布津部の海拔は1mほどしかないので大雨の時は危険です。幹線の民家があるところは法面をかさ上げして欲しい。

## 回 答

法面については県事業ですが、明日でも現地を確認して、県土木に伝えていきます。

## 意見③

布津部は海拔が低い。南海トラフが差し迫っていますが、緊急に対応していることがあれば教えてほしい。また、海に出るところに水門があるが、ゲリラ豪雨が発生したら一気に水かさが増し、民家が浸かるということが起こることもある。かさ上げが出来なくても浸からないように梅雨から台風の時期にポンプをつけるなどしてもらえないでしょうか。

布津部には松林があり間に排水路があります。南海トラフ地震がきたら、逆に津波で海から水が入ってくる。津波の時に自然に蓋ができるような対応ができないでしょうか。

## 回 答

南海トラフ地震の津波対策というと、いかにスピーディに避難できるかということがポイントになってきます。市では津波高は実際は2.7mを想定しており、3倍の9mのところ避難してくださいとお願いしています。この地区は毎年避難訓練していただいていますので、その都度、避難がきちりできる体制を作ることが大事だと思います。自助、共助といいます。まず自助それから共助が大切になってくるので、そのために支援していきたいと思っています。大雨時に水がはけないというのはこの場で回答はできないので、実際に区長さんと現状を確認したいと思います。

排水の逆流を防ぐ方法については、現地を見ないと分からないので確認したいと思います。ゲリラ豪雨については、布津部の一部だけが浸かるのであれば消防のポンプもありますが、全体が浸かることになれば難しいかと思います。

## 意見④

小学校北門から100m行ったところに下敷田市営住宅管理棟が4軒あります。去年夏頃みんな出ていきました。築50年以上経過しており到底住めないで、壊して更地にして新しい棟を建ててほしい。

## 回 答

下敷田の市営住宅は3棟8戸ありますが、1棟は引き上げ、住宅は1人住んでいます。それ以外の住宅は確かに壊れかけており、防犯上良くないと思っています。危ないので近いうちに取り壊したいと思っています。更地にして新築をとということですが、宇佐市は市営住宅の数が多く、統合して集約する方向で進めています。

## 意見⑤

海岸の造成はもう一年したらきれいになります。地域づくり協議会が発足してみんなで一団となってした結果だと思います。松など植えミニ公園などにしたいと思います。元気づくり補助金などを使ってきれいな広場になっていますので、防災訓練や消防の訓練などで使っていただけたらと思います。

## 回 答

消防訓練はいつでも協力しますので、連絡してください。

## 意見⑥

9月17日に伊呂波川があふれそうだとメールをいただいた。駅館川の様子はパソコンのライブカメラでわかるが、伊呂波川の側に行って確かめるのは怖いので、ライブカメラをつけていただいていたら、どうなっているのに行かなくても見ることができると思います。

## 回 答

市で設置したもの、県が設置したのがあります。市が設置したものは2カ所、県が別府橋、伊呂波川につけたものがあつたと思います。今回の17日には危険氾濫水位を超えたので避難勧告を出しましたが、常に監視をしていますので、早いタイミングでみなさんにお知らせしたいと思っています。

## 意見⑦

小学校単位でまちづくり懇話会を開いていただきありがとうございます。前回の質問に対するその後の対応も丁寧な回答をいただきました。この前の台風で防災無線の放送をしていたが、外に出ても風や雨で全然聞こえませんでした。先日、市防災無線応答サービスが役立ちました。電話番号が書かれている名刺が配布されていますが徹底されていないのではないのでしょうか。安全安心メールは1万2千人くらいしか登録されていないとのことでした。防災無線が聞こえないならメールの着信や応答サービスを活用したら良いのではないのでしょうか。

## 回 答

防災行政無線の電話応答サービスは2014年にスタートしています。全戸に電話に貼って下さいと専用シールをお配りしています。ただ一定期間、時間が経っていますので、なくなったりしているかと思しますので、防災無線が整備できるまでの間、情報の取得手段を市民にお伝えする機会を考えてみたいと思います。シール配布を再度検討することも含めて考えていきたいと思っています。

## 意見⑧

天津は中津と隣接していて、特に小児救急医療は中津の市民病院にかかっている人が多い。以前、広域の市町村の中で、中津市民病院の小児科医が夜間も行ってた。先般それが後退したという状況があつたので、充実を図ってもらいたい。

## 回 答

今年度の4月から中津市民病院の小児救急センターの形態が変わり、中津市立小児科救急センターとなりました。なぜかという、小児科医の確保が難しく、中津市民病院で昼間診察している先生たちは24時間で診るため大変だということで運営や組織を別にして

存続させようとした。中津市立小児救急センターでは夜7時から10時まで診療し、それ以降の時間帯では、まず電話で市民病院の小児科が対応して、翌日の診療でいいか、すぐ来たほうが良いか判断して、すぐ診察したほうがよいというのであれば市民病院の小児科が診察しています。今後とも近隣の市町村、医師会等と協議しながら、小児科医の確保に努力していきたいと思っています。

#### 意見⑨

まち人口ビジョンの将来展望というところで、宇佐市は今57,146人ですが、目標として5万人維持となっています。2.3というのが合計特殊出生率で、2015年は1.78となっており、2.3というのはちょっと高いハードルではないかと思います。8月末現在で出生が32人で、亡くなったのが77人で差が45人なのです。7月は差し引き40人。亡くなった人が多いのです。子育てなどいろんな施策をされているが、5万人を維持できるのかと心配になります。さらに人口を維持できるように努めてほしい。人口維持するために2.07といわれている。2.3というのは少し数字が大きいような気がして心配している。

#### 回 答

地方創生を始めて人口ビジョンなどを策定しました。平成26年は1.73という数値で、今年は1.78という数値になっています。確かに2.3というのは相当高いハードルだと理解しています。まちひとしごと創生総合戦略の中では、2030年に2.0、2040年に2.3を目指そうとしています。これは県と同一歩調の目標を持っていくということです。総合戦略に4つの柱を持って、安定した雇用、人の流れを作る子育て・出産の施策の充実、地域の活性化を総動員していかないとできないと思っています。そのためにもこの懇話会を通じてみなさんの意見を聞きながら目標に向かっていきたいと思いません。

#### 意見⑩

先ほど、建設水道部長が市営住宅は集中して八幡に持っていくと言ったが、八幡の新入生は20数名いたが、天津は10名でした。そのところを考えると、多くいるところに持って行かないで少ない所に持って行ってほしい。敷田は業者から「駅が近いので人気があるので住宅はないか」と聞かれる。八幡は北部校区で一番多くなっている。

また、台風の時にいろんな情報が入ってきてありがたい。雨が土砂降りの時に避難勧告が出て、避難をするのは大変。もう一度いい知恵がないか検討してもらえたら。

#### 全体の補足回答

災害が起こった時にどうやってうまく情報を伝達していくか課題となっています。現在、防災無線のアナログ波をデジタル化していく構想を策定しており、いろんな防災無線のしかけを比較検討しているところです。特に、防災無線は雨風が強くなり、戸締りすると聞こえにくくなりますので、単一の伝達手段でなく複数の伝達手段が必要となってきます。時間帯によっては職場にいる人もおり、メール等の伝達手段、マルチの伝達手段を考えて

いかなくتهはいけないと思っています。基本構想を策定する中でみなさんと知恵を絞っていきたくてと思っています。

人口問題については、今、宇佐市では年間約400人の子どもが生まれる一方、約800人の方が亡くなっています。単年度で約400人、5年間で約2,000人、人口が減っています。出入りの関係ではパナソニック閉鎖の影響で宇佐市は数百人ずつ減っていましたが、ここにきてほぼ同じくらいになってきましたので、亡くなる方と出まれる方の差をどう縮めていくかが重要になっています。合計特殊出生率は、かつて1.5であったのが1.7まで上がってきました。若い方をみると結婚しない方や、結婚しても晩婚という方が多くなっています。若いうちに結婚していただいたら出生率が上がっていくと思いますので、婚活にも力を入れていきたいと思います。

市営住宅は、県から示されている宇佐市全体の適正管理戸数は1,000戸とされていますが、宇佐市には1,600戸あり、600戸減さないといけない状況です。下敷田団地については取り壊しをするのですが、トータルで減らさなければならないことをご理解いただきたいと思います。天津の児童をどうするかというのは、また地元の方とお話をし、て相談していきたくてと思っています。